
[成果情報名] セル成型苗直接定植と誘引ネットによるパプリカの省力栽培技術

[要約] パプリカの早熟栽培においてセル成型苗の直接定植を行う場合は12月下旬に播種すると慣行のポット苗利用に比べて収量が向上する。15cm目合いの誘引ネットを3段で誘引すると慣行のひも誘引と同等の商品果収量が得られる。

[キーワード] パプリカ、早熟栽培、セル成型苗、誘引ネット

[担当部署] 野菜栽培部・野菜栽培チーム

[連絡先] 092-922-4364

[対象作物] 野菜

[専門項目] 栽培

[成果分類] 技術改良

[背景・ねらい]

パプリカの早熟栽培で、収量を高めるためには、優良品種「フィエスタ（黄色）」あるいは「スペシャル（赤色）」を選定し、主枝本数を800～1000本/a程度にする必要がある（平成15年度農業関係試験研究の成果）。しかし、定植株数が多いため育苗および主枝の誘引作業に労力がかかる。

そこで、育苗の省力化が可能なセル成型苗の直接定植と誘引作業の省力化が図られる誘引ネットの利用効果を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

- 1．パプリカ「フィエスタ」のセル成型苗を直接定植する場合、2月上旬に播種して4月上旬に定植する慣行栽培法より多くの収量を確保するには、播種を50日早め12月下旬に播種して2月下旬に定植する（表1）。この際、月別の収量は6月、7月に増加する（図1）。
- 2．慣行栽培と同じ2月上旬に播種し、慣行苗より13日早くセル成型苗を直接定植すると、商品重、A品重が慣行栽培よりやや劣る（表1）。
- 3．「フィエスタ」および「スペシャル」を地面と平行に設置した3段の誘引ネットで誘引すると慣行のひも誘引と同等の商品果重が得られる。「フィエスタ」では誘引ネットで誘引するとひも誘引に比べて変形果がやや増え、A品重がやや劣る（表2）。
- 4．誘引ネットによる誘引作業は、定期的に主枝をネット目合いの中へ誘引するだけであり、ネット設置を含めた作業時間はひも誘引に比べて約1/2に短縮できる（データ略）。

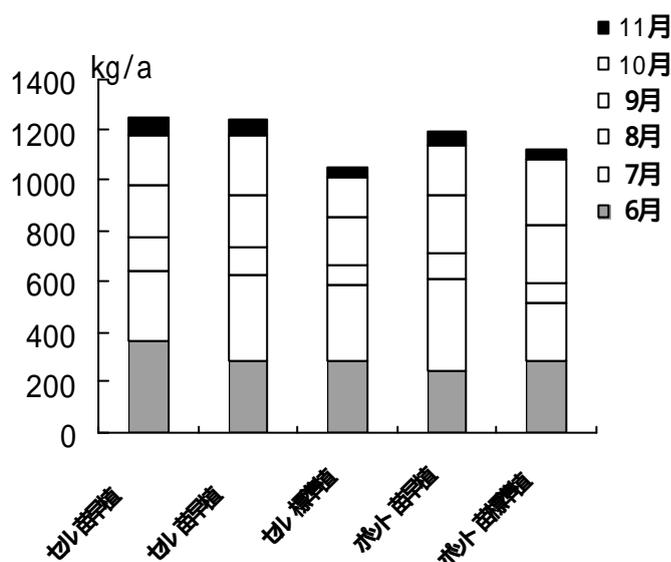
[成果の活用面・留意点]

- 1．2月下旬定植のため、定植2週間前にマルチを張り地温の確保に努める。また、定植後も2重カーテンやトンネル被覆により保温を行う。
- 2．誘引ネットを利用する場合でも側枝の整枝はひも誘引と同様に2節摘心とし、過繁茂にならないように注意する。

[具体的データ]

表 1 セル成型苗の播種日と収量および品質(平成 15年)

試験区	播種日 月.日	定植日 月.日	慣行苗標準 と定植日の差 日	商品 果重 kg/a	A 品重 kg/a	着果数 個/株	1果重 g	A 品率 %	不良果発生割合	
									凹凸果	ひび果
セル苗早植	12.20	2.26	-41	1249	922	12.6	124	66	28	2
セル苗早植	1.17	3.12	-27	1240	850	13.8	116	57	36	3
セル苗標準	2.8	3.26	-13	1048	820	12.3	116	64	28	1
慣行苗早植	12.20	3.3	-36	1185	755	12.6	118	59	35	1
慣行苗標準	2.8	4.8	0	1131	849	11.6	119	68	27	1



- 注)
- セル苗は30穴セルトレイ、慣行苗は10.5cmポリポットを用い、根鉢形成時に定植
 - 主枝本数 833本/a
(畝間120cm、株間20cm、2条)
 - 定植後はトンネル用ビニルを4月20日まで被覆、7月20日~10月14日の晴天日の日中はクールホワイトを被覆
 - 収穫期間 6月1日~11月10日

図 1 セル苗の播種時期と商品果収量(平成15年)
(品種 :フィエスタ)

表 2 誘引ネットによる誘引と収量および品質(平成15年)

品種	誘引方法	商品 果重 kg/a	A 品重 kg/a	着果数 個/株	1果重 g	A 品率 %	商品 果率 %	不良果発生割合		
								変形果	ひび果	日焼果
フィエスタ	ひも	1223	963	24.3	130	68	91	17	16	4
	ネット	1269	901	27.1	118	63	94	28	13	1
スペシャル	ひも	1286	1045	24.0	137	72	93	21	2	5
	ネット	1247	1077	22.7	137	80	95	12	3	1

- 注)1. 2本仕立て 主枝本数833本/a (畝間120cm、株間20cm)
 2. ネット誘引: 目合い115cm、幅45cmのフラワーネットを高さ50cm、90cm、130cmの3段で地面と平行に設置し、主枝の高さが170cmに達した時点で、主枝を直管パイプに固定。
 ひも誘引: 株から左右に30cmほど振り分けてV字に誘引。
 3. 定植: H15年4月8日

[その他]

研究課題名: 早熟栽培におけるパプリカの高品質安定生産技術の確立
 予算区分: 国庫助成(先端技術等新技術実用化)
 研究期間: 平成15年度(平成13~15年)
 研究担当者: 石坂晃、井上恵子